

2013年3月期 第2四半期業績概要

2012年 11月1日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2012 2Q
Copyright© ANRITSU

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

I . 2013年3月期 第2四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 財務状況

I -4. 2013年3月期 通期見通し

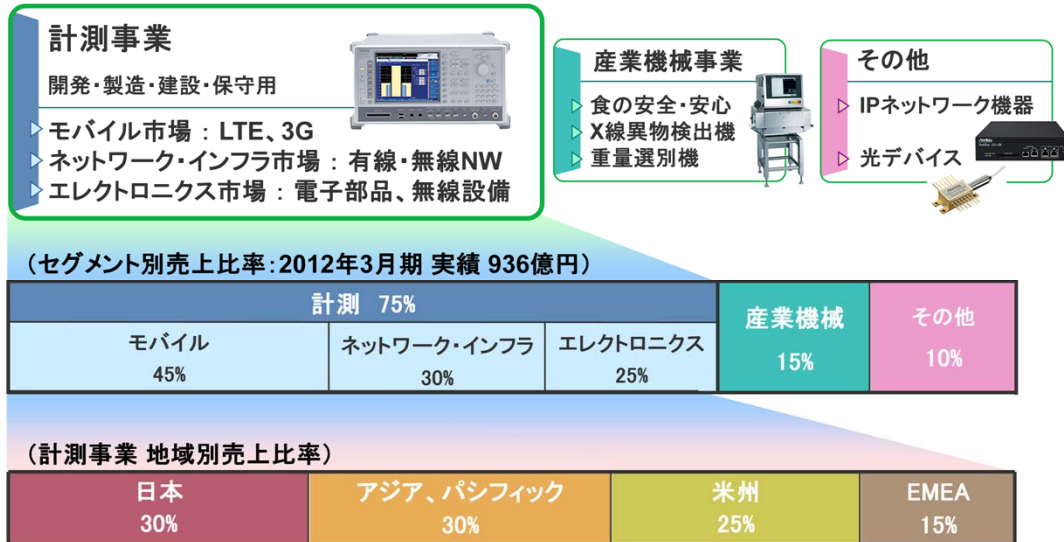
I -5. 配当について

II . モバイル分野の計測ビジネス

Appendix



I -1. 事業概要



(ノート部記載なし)

I-2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバとして 計測事業が堅調に推移

セグメント	2013年3月期 第2四半期の状況
計測	・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が継続
	・ネットワークインフラ:無線インフラを中心に堅調
	・日本:モバイル関連に集中投資あり
	・アジア:製造用投資は堅調
産業機械	・米州:LTE開発、無線インフラが堅調
産業機械	国内外ともに堅調
その他	総じて堅調に推移

第2四半期の業績は、前年度および第1四半期に引き続いて、モバイルブロードバンドサービス分野の需要が当社グループの業績を牽引しました。すなわち2011年度に飛躍的に伸長したモバイル計測事業は、当上半期を通じて堅調に推移しました。

モバイル計測市場の市場状況は次のとおりです。

(1) 携帯端末の総出荷台数に占めるスマートフォンの割合は、前年以上に増加しています。それは、新しいモデルの開発競争、販売競争を促す結果となり、携帯端末製造市場における堅調な設備投資として表れました。とりわけスマートフォンの新モデルの投入で巻き返しを図る日本の携帯端末ベンダーは、第1四半期において積極的に生産設備を更新しました。

(2) 第4世代の新たな超高速モバイル通信方式、LTE方式の研究開発用の計測システムは、チップセット・ベンダーを中心に堅調な需要が見られました。

(3) オペレーター関連では、日本、北米市場で、基地局ネットワークの建設や周波数再編関連の投資が堅調な動きを見せました。

一方、産業用エレクトロニクス市場全般としては、第2四半期に入ると、設備投資に一段と抑制傾向が見られるなど、マクロ経済の停滞を反映した状況になりました。

産業機械事業は、日本市場で上向き傾向が見られるなど、総じて国内外とも堅調に推移しました。

その他事業の情報通信事業などは、前年度と同様の動きになっています。

I -2. 連結決算概要 - 第2四半期業績サマリー -

増収増益

(単位:億円)

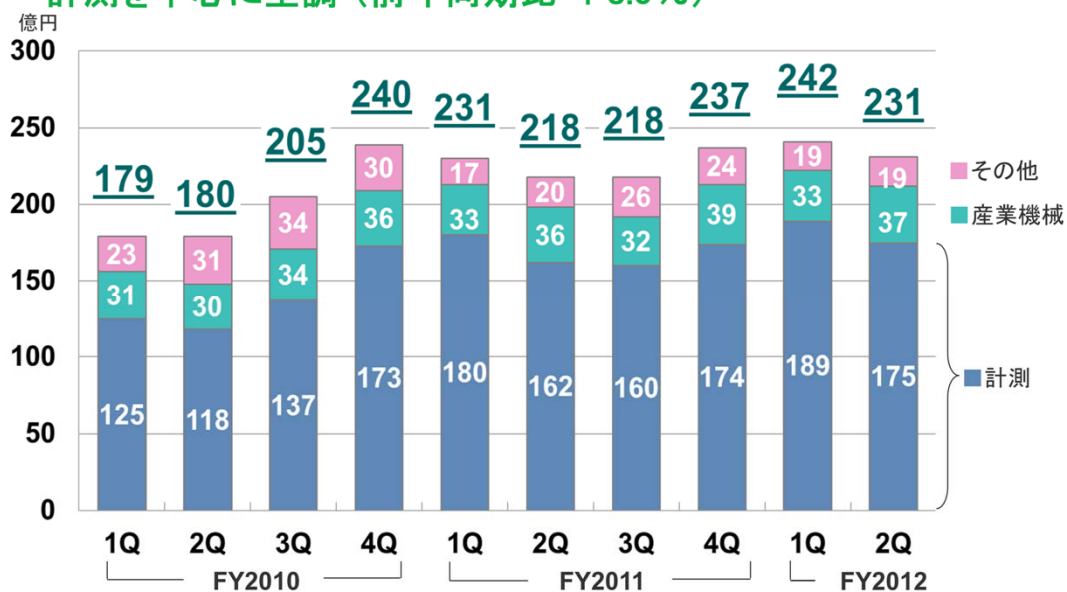
	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	449	473	24	5%
売上高	447	463	16	4%
営業利益	75	87	12	17%
税引前利益	65	81	16	25%
当期利益	47	69	22	47%
当期包括利益	35	61	26	75%
フリーキャッシュフロー	63	47	△ 16	△25%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業の増収増益によって、グループ全体としても、営業利益は87億円、税引前利益は81億円、当期利益は69億円と、それぞれ前年同期比で大幅な増益となりました。なお、なかでも当期利益が大幅に改善している理由は、順調な本業の収益力を背景に回収可能性の見直しにより、見積実効税率が変更され税金費用が減少したことによります。

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測を中心に堅調（前年同期比 +8.0%）



（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

四半期単位の計測事業の受注高は、2010年度・第3四半期から8四半期連続して、前年同四半期を上回って推移しました。当上半期の特徴としては、欧州市場を除く日本、アジア、北米の各市場から万遍なく堅調に受注を獲得したことがあげられます。

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

計測事業のモバイル関連ビジネスがけん引

(単位: 億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	340	354	14	4%
	営業利益	74	85	11	16%
産業機械	売上高	72	72	0	0%
	営業利益	4	5	1	32%
その他 (含: 内部消去)	売上高	35	37	2	7%
	営業利益	△2	△2	0	13%
合計	売上高	447	463	16	4%
	営業利益	75	87	12	17%

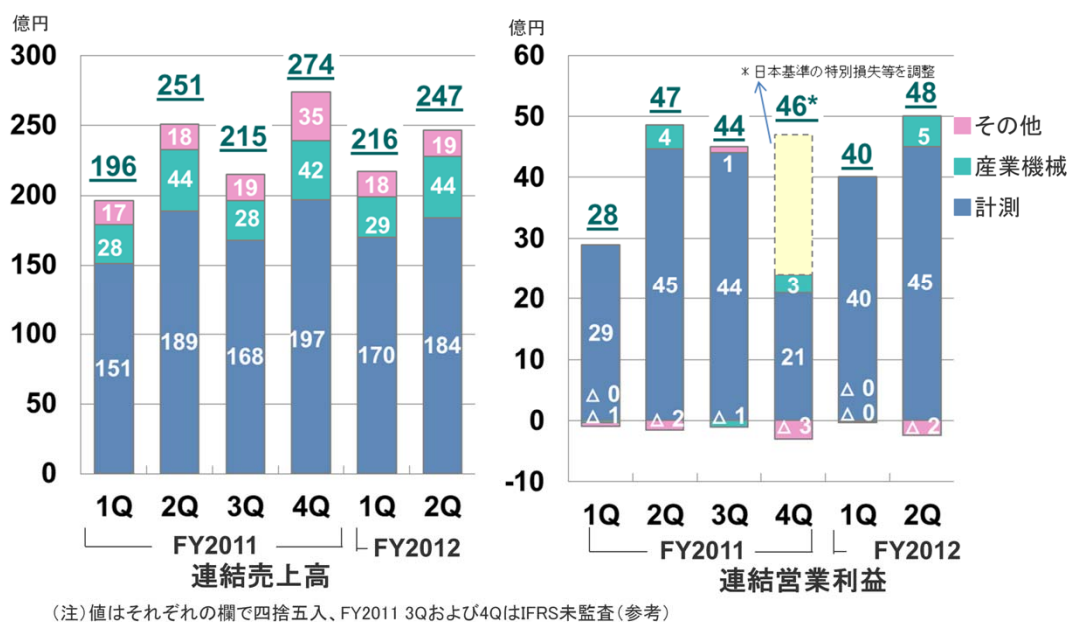
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業は、前年同期比4%の増収となる売上高354億円を達成し、営業利益85億円、営業利益率24. 1%の成果となりました。

産業機械事業は、売上高は前年同期と同額の72億円、営業利益5億円、営業利益率6. 6%でした。

その他事業では、情報通信事業の経営構造改革の成果が確認できるようになってきました。

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 - 2Q(7月～9月期)の売上高、営業利益ともに順調に進捗



Anritsu

Discover What's Possible™

9

Financial Results FY2012 2Q

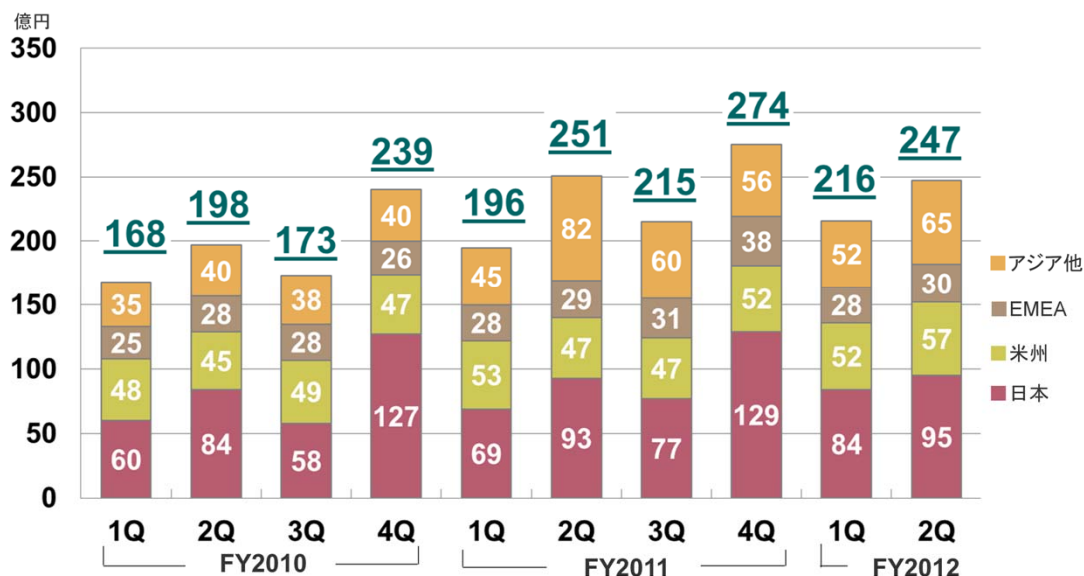
Copyright© ANRITSU

当第1、第2四半期の連結営業利益率はそれぞれ18.5%、19.3%
計測事業の営業利益率は、それぞれ23.6%、24.5%でした。

なお、2011年度の第3、第4の各四半期の数値は、監査前の国際会計基準の値を参考として掲載してあります。

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

全地域で順調



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入、FY2011 3Qおよび4QはIFRS未監査(参考)

第2四半期では、米州市場で伸長したほかは、日本市場、欧州市場が前年同期並みでした。アジア市場は前年同期比では大きく減少しましたが、直近の4四半期の中では最高水準を示しており、堅調に推移していると見ています。

なお上半期を通じての特徴は下記のとおりです。

- (1) 米州は、LTE関連市場が引き続いて活発である一方、無線基地局の建設保守市場への投資も上向く傾向にあります。
- (2) EMEAは、有力な携帯端末ベンダーやチップセット・ベンダーなどの人員削減や開発拠点、製造サイトの閉鎖など厳しい経済状況が続く状況にもかかわらず、前年同期並みの水準を確保しています。
- (3) アジア市場は、携帯端末の製造市場を軸に順調に増加しました。
- (4) 日本市場は、携帯端末ベンダーのスマートフォンの新モデルの投入やオペレーターの無線ネットワーク整備への積極的な投資が、特に第1四半期に目立っていました。

I-2. 連結決算概要 - キャッシュフロー

着実にキャッシュフローを創出

FY2012 2Q(累計)

①営業CF: 72億円

②投資CF: △25億円

③財務CF: △58億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 47億円

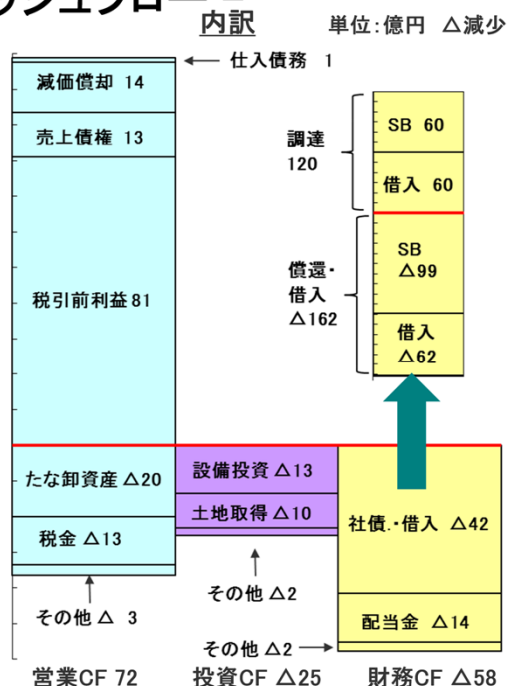
現金同等物期末残高

379億円

有利子負債高

223億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



Anritsu

Discover What's Possible™

11

Financial Results FY2012 2Q

Copyright© ANRITSU

営業キャッシュフローは、前年同期を上回る72億円の資金獲得となり、営業キャッシュフロー・マージンは15.7%となりました。

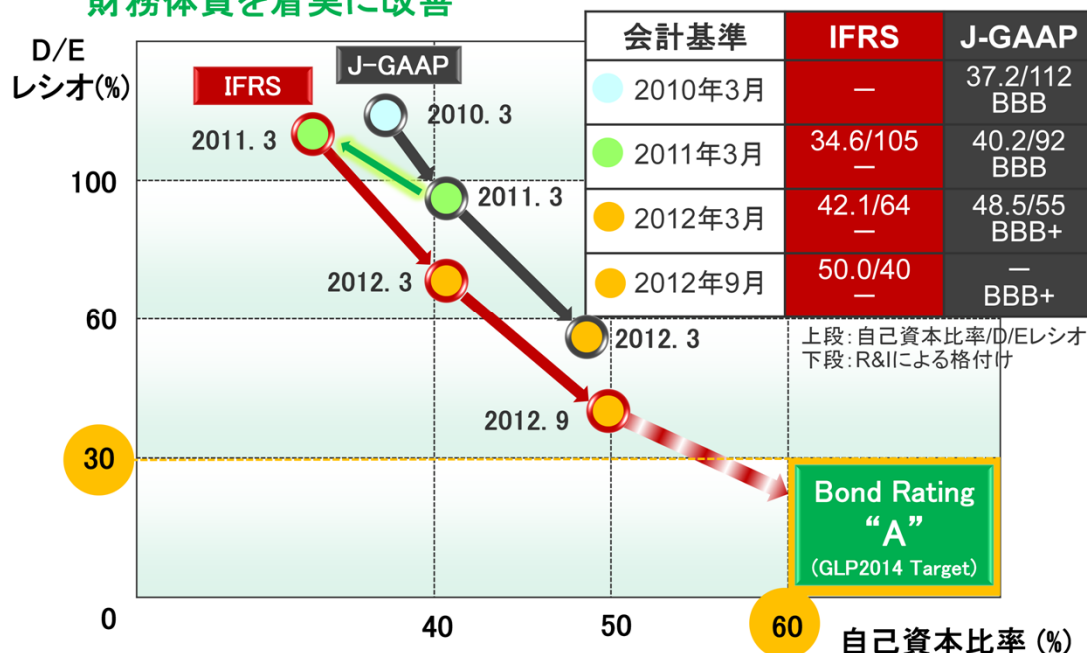
これの主な要因は、税引き前四半期利益の増加と運転資本の改善によるものです。投資キャッシュフローは、計測事業の強化をはじめとする設備投資13億円に加えて、福島県郡山市における新工場建設のための土地取得10億円が主なものです。

その結果、フリー・キャッシュフローは47億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローのうち資金調達は、純額で42億円のマイナスとなりました。その内訳は、普通社債60億円の発行と金融機関からの長期借入れ60億円の合計120億円の資金調達に対して、社債99億円の償還および借入れ返済62億円、合わせて有利子負債162億円の圧縮との相殺となります。

I-3. 財務状況

財務体質を着実に改善



Anritsu

Discover What's Possible™

12

Financial Results FY2012 2Q

Copyright© ANRITSU

アンリツグループは、2012年4月1日から連結決算の会計基準として国際会計基準IFRSを適用しています。その目的を一言で言えば、グローバル経営は事業展開力と経営力の双方がグローバルに通用するものではなくてはならない、という信念に基づくことによります。その結果、退職給付債務の顕在化など財務上、負の影響面もありましたが、透明度の高い経営をモットーに、一層の財務体質の健全化に努力してまいります。

自己資本比率は、IFRSの適用の結果、2012年3月末で、48.5%から42.1%まで低下しましたが、2012年9月末においては、50.0%まで改善することができました。

アンリツは、国際会計基準の下、健全な財務体質の中長期目標とする、自己資本比率60%以上、D/Eレシオ30%以下に取り組んでいきます。

I -4. 2013年3月期 通期見通し(連結) : IFRS

計測の営業利益を上方修正

(単位 : 億円)

		2012/3期	2013/3期		
		前期実績 (IFRS監査済)	通期予想 4/26発表	通期予想 今回	前期比 増減額
					前期比 増減率(%)
売上高		936	945	945	9
営業利益		140	155	165	25
税前利益		131	145	155	24
当期利益		80	100	120	40
計測	売上高	706	700	700	△ 6
	営業利益	138	140	150	12
産業機械	売上高	142	150	150	8
	営業利益	6	10	10	4
その他*	売上高	89	95	95	6
	営業利益	△ 4	5	5	9

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=80円
1ユーロ=100円

Anritsu

Discover What's Possible™

13

Financial Results FY2012 2Q

Copyright© ANRITSU

2012年度の通期業績の見通しは、売上高は4月に発表した予想値のとおりとしますが、利益については上方修正します。

第1四半期の決算発表時に、当上期の売上高、利益はほぼ前年度上期並みを見込むとしましたが、計測事業の上期業績は予想を上回って着地することができました。つきましては、上期での営業利益の上ぶれ分を織り込んで、通期の営業利益165億円、税引き前利益155億円、当期利益120億円とします。

アンリツグループの業績を牽引しているモバイル計測事業を取り巻く環境は、LTEへの投資拡大、スマートフォン市場の拡大と競争激化など、マクロな見通しに大きな変更はありません。しかしながら下期の計測事業は上期に対して減収の見込みのため、通期売上高は700億円に据え置きます。理由は、全世界で第2四半期後半あたりから悪化してきた景況感が、さらに長引く傾向にあること、中国における日本製品の不買運動の影響、日本の携帯端末ベンダーの投資意欲に不透明感があることなどからです。

利益面は、顧客サポート力を強化するための戦略投資費用を増額することと、日本市場での減収などを織り込むため、計測事業の通期営業利益率は20%を目標とします。厳しい事業環境が予測されますが、新たな業績見通しの達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

I-5. 配当について

年間配当:増配

15円 → 17円(中間配当7.5円、期末配当9.5円)

配当方針

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期利益の水準に応じて、DOE(日本会計基準における連結純資産配当率)を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

(※ CB転換(コールオプション行使)後の発行株式数 143,956千株)

Anritsu

Discover What's Possible™

14

Financial Results FY2012 2Q

Copyright© ANRITSU

当社は、株主の皆様に対する利益還元策として、連結当期利益の増益に応じて DOE(日本会計基準における連結純資産配当率)の水準を上昇させることを基本にしつつ、諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行うこととしております。

上記の業績予想の上方修正に伴い、配当は、平成24年4月26日の平成24年3月期決算発表時に公表した1株あたり年間15円(うち中間配当7.5円)から2円増額し、1株あたり年間17円(うち中間配当7.5円、期末配当9.5円)に増額いたします。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2012年度の第2四半期の業績報告とします。

Ⅱ-1. モバイルブロードバンド市場の急成長

通信方式の進化
スマホの普及
サービス、コンテンツの拡大
データトラフィックの増大

相互作用することにより、モバイルブロード
バンドサービス市場が急成長
(スマホがPCの機能を代替)

ビジネスチャンス: **LTE、データオフロード等**



(ノート部記載なし)

Ⅱ-2. LTE関連の開発テーマとLTE商用化

現状、課題となっている開発テーマ		イベント
LTE	VoLTE*	2013末までに195事業者が開始 (FDD/TDD)、以降も商用化が継続
	TDD-LTE	China Mobile 2013年 商用化
LTE Advanced	キャリアアグリゲーション (CA)*	AT&T、Sprint 2013年 商用化 NTT DoCoMo 2016年度 商用化

(注) VoLTE(Voice over LTE):LTE通信方式での音声通話。現在のLTEスマートフォンの音声通話は3G通信方式を活用。
 キャリアアグリゲーション(CA):より高速な通信を行うために、周波数帯域を束ねた通信機能。
 MIMO(Multiple Input Multiple Output):複数の送信用および受信用アンテナを使用し、通信帯域を広げる通信技術。

(ノート部記載なし)

Ⅱ-3. スマートフォンの開発テーマと計測ソリューション

	開発テーマ	動向
スマートフォン	商用開発に向けた パフォーマンス試験(スループット、消費電流、・・・) OSバージョンアップ時の動作検証	スマートフォン、タブレット端末の普及拡大 無線モジュールなどが多くの機器に使用される
タブレット端末		



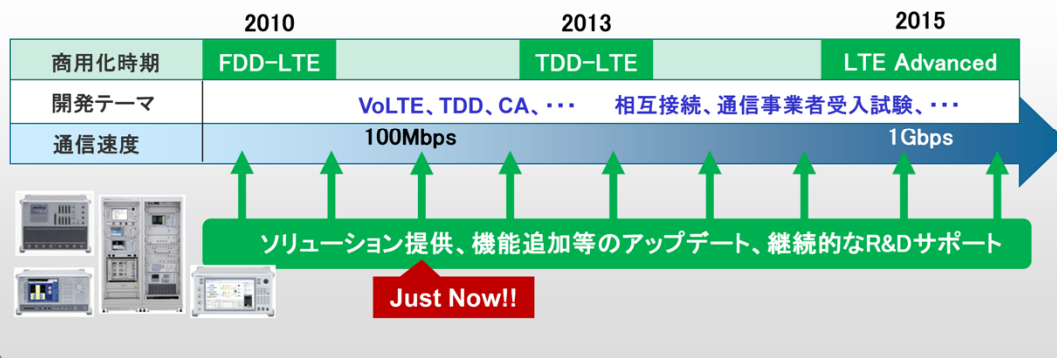
2G/3G/LTEのマルチ通信規格に対応。
ユーザーフレンドリーなインターフェースにより
簡単な操作で通信状態の多角的な評価が可能。

(ノート部記載なし)

Ⅱ-4. モバイル開発向けビジネス: 需要継続

顧客の開発支援による継続ビジネスの確保

主な顧客: ベンダー (チップセット、ハンドセット)



(ノート部記載なし)

Ⅱ-5. 製造の課題と計測ソリューション

	テーマ	動向
製造	スマホ、タブレット、無線モジュールの量産化・生産性の向上 シーケンス計測	3G/LTE計測に加え、GPS、SRW*（無線LAN、Bluetooth）、NFCを1ボードや1チップに搭載

(注) SRW(Short Range Wireless): 無線LANやBluetoothなどの短距離無線通信、10m~100m程度。
NFC(Near Field Communication): 近距離無線通信、SRWよりも距離の短い非接触通信。



セルラー通信規格(3G/LTEなど)に特化した
呼接続による無線機テスト。
FDD-LTEおよびTDD-LTEをカバー。

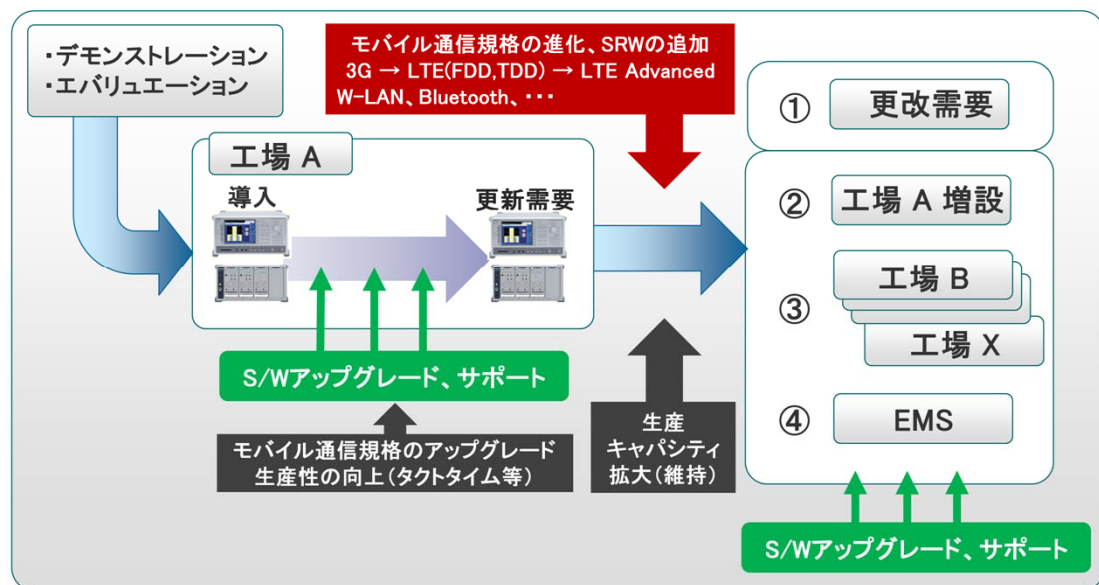


SRWおよび3G/LTEの測定が可能、かつ、
4モジュールを同時に計測可能。
シーケンス計測によりタクトタイムの優れた計測器。

(ノート部記載なし)

Ⅱ-6. モバイル製造向けビジネス: 需要拡大

顧客の生産性向上によるリピートビジネス獲得



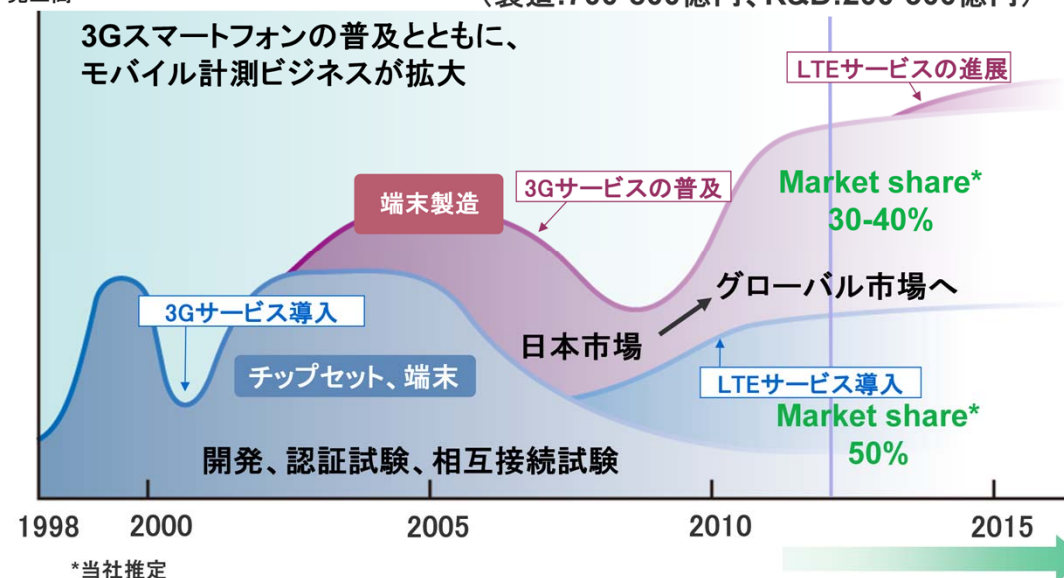
(ノート部記載なし)

Appendix

Appendix (1) - モバイル計測ビジネスのトレンド -

モバイル計測市場(当社推定):1,000-1,100億円

売上高 (製造:700-800億円、R&D:200-300億円)



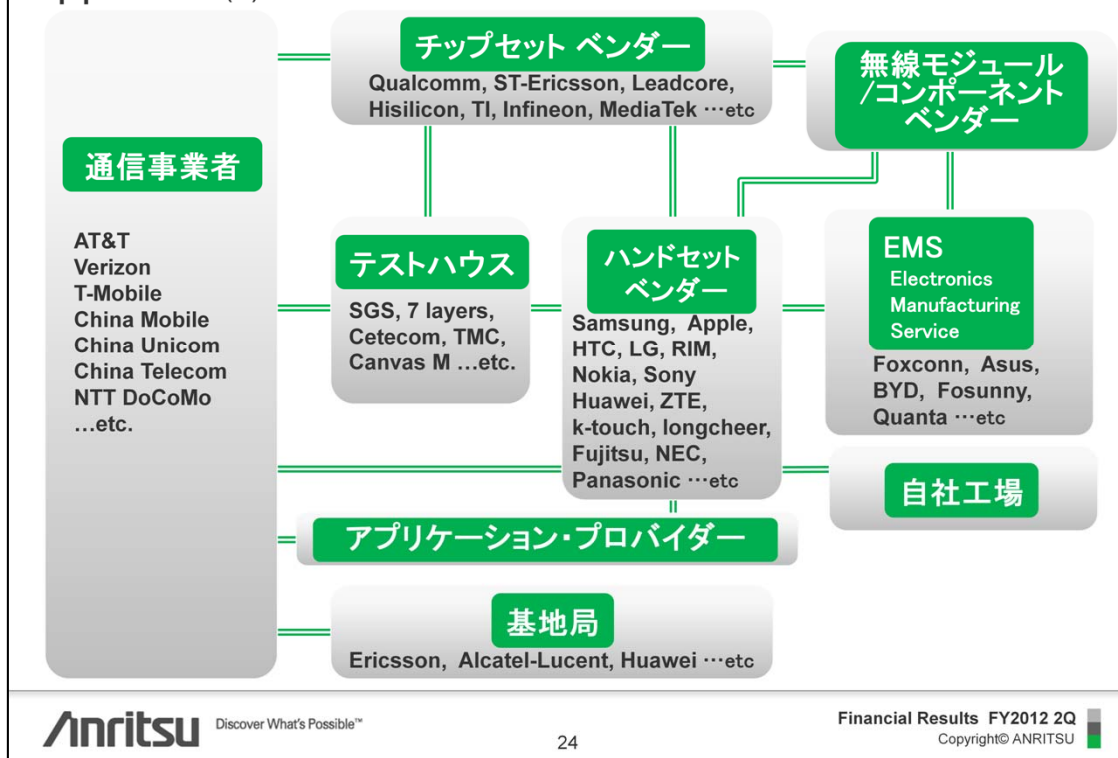
Anritsu Discover What's Possible™

23

Financial Results FY2012 2Q
Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

Appendix (2) - モバイル通信市場の業界構造 -



(ノート部記載なし)

Appendix(3) - 3ヵ年経営計画 GLP2014 目標数値 -

2020
VISION



GLP2014

指標		FY2011	FY2012 (2012年4月)	FY2014
売上高		936 億円	945 億円	1,100 億円
営業利益		140 億円	155 億円*2	190 億円
当期利益		80 億円	100 億円*2	130 億円
ROE		19.5 %	20 %	20 %
ACE*1		52 億円	70 億円	90 億円
計測	売上高	706 億円	700 億円	800 億円
	営業利益	138 億円	140 億円*2	160 億円
産業 機械	売上高	142 億円	150 億円	180 億円
	営業利益	6億円	10 億円	15 億円

(注) *1 ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation) : 税引後営業利益－資本コスト

*2 FY2012 計画値 : 修正情報あり(2012年10月)

Anritsu

Discover What's Possible™

25

Financial Results FY2012 2Q

Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

2020 VISION



(ノート部記載なし)

The Anritsu logo features the word "Anritsu" in a bold, sans-serif font. The letter "A" is stylized with a diagonal stroke. A thin green horizontal line is positioned directly beneath the text.

Discover What's Possible™